

発行者 日本 ALS 協会 長野県支部事務局

長野県 ALS 支部だより

長野市上野 1-680-2 原山方

Tel 026-263-6335

Fax 026-243-8820

<NO33>

akane_harayama@tetote7107.org

令和4年9月吉日発行

～筋萎縮性側索硬化症と共に闘い、歩む会～

『自分らしく生きることを大切に』



コロナと猛暑の夏が過ぎ、秋の気配が感じられる頃となりました。
皆様いかがお過ごしでしょうか。

6月に「松本市なんなん広場」で総会&講演会・交流会を開催しました。総会はコロナで書面評決となっていました。2年ぶりに現地開催となりました。当日は、現地に57名、オンライン参加40名と本当に大勢の皆様が参加されました。



今回の支部だよりでは講演会&交流会の様様、おしゃべり広場の予定、喀痰吸引等研修の案内、秋の交流会（地域連携プロジェクト）の案内等についてお知らせしていきます。

1. 6/11 総会・講演会&交流会の様様
 2. 夢の信州ダービー車いすツアーについて
 3. おしゃべり広場の予定
 4. 第1回 喀痰吸引等研修の報告
第2回 喀痰吸引等研修のご案内
 5. 秋の交流会（ソーシャルインクルージョン in 清泉）のご案内
 6. ご寄付をいただいた方
 7. 支部の動き
- 支部連絡先
- 企業広告

1. 6/11 総会・講演会&交流会の様様

はじめに長野県健康福祉部 保健疾病対策課 がん疾病対策係長 米澤和陽氏より、オンラインでご挨拶をいただきました。続いて行われた講演会では、相澤東病院 診療部長 近藤清彦医師による「ALS の呼吸器症状と人工呼吸器について」と、相澤病院 脳卒中脳神経リハ科 鶴飼正二氏、鹿川彰文氏の「呼吸器リハビリとカフアシストについて」と題して講演していただきました。



近藤先生は「呼吸器を付けると一生寝たきりになる」などの誤解から装着を希望する患者が2割程度と低い現状であると。丁寧に説明することが大事と写真や動画を用いて講演されました。

近藤先生は講演の後、「見上げてごらん夜の星」をオートハープで演奏されながら歌を披露していただきました。

続いて鶴飼氏からは呼吸が楽になるリハビリの実践を交えてお話がありました。

当日資料としてお配りできなかった鶴飼氏の講演会資料は別掲させていただきます。

交流会

司会：これから交流会を開催します。皆さん、最近のことなどなんでもお話しください。

Aさん：発症してから4年経った。この会に参加するようになってもうすぐ3年、松本で開催なので重度訪問介護を担ってくれる大勢のヘルパーと一緒に参加している。治験に参加したこと、たくさんの支援者に出会って多くのことを学んでいる。子どもたちもそれなりに成長している。これからもたくさんの困難があるが頑張っていきたい(学生ヘルパー代読)



Mさん：2019年に発症した。今はどこも動かない。コミュニケーションは頭文字を覚えてもらって介助者が推測している。日常会話はできないが、意思伝達装置を筋の動きで動かしている。本人も介助者も家に閉じこもらないようにしている。今日も会場に参加している。

Nさん：夫が3年前に発症。夫が念願だった在宅での生活をたった5日間ではあったが介助することが出来た。ずっと在宅で介助することができない状態。母の体調も良くない。子どもたちのこともあるので、今は松本にあるアクアホームに入居できて本当に良かった。病気である夫もつらいと思うので自分や子どもたちと一緒に支えていきたい。AさんやMさんと関わる中でこれからもつらいことがあるがあきらめたくない。皆さんのお力をお借りしたい。



司会：今日はアクアホームの担当者が見えているので紹介したい。

アクアホーム黒木氏：松本市内里山辺にある医療的ケアに対応のできる住宅型の有料老人ホームです。看護師が24時間滞在し日中は8名、夜間は4名で対応している。ALSや呼吸器を装着している方の入所ができる。詳しくは資料を見てほしい。

司会：医療的ケアができる貴重な場所で長野県では数が少ないので今後も期待したい。

A氏の夫：妻と何回か交流会には参加している。情報交換の場になっている。ALSになってから自分の力で切り開いている。自分で何でもできる。学生ヘルパーや社会人ヘルパーなどの力をもらって前向きに組織を大きくしてきた。子どもたちにも困難なことや生きていく力、切り開いていく力が身についてくれればいいと思う。これからも頑張ってもらいたい、これからも一緒に支えていきたい。

司会：オンラインで参加のKさんからカフアシストを始めた、側臥位も頑張っている。とメッセージがあった。当初、会場に参加予定だったHさんがオンラインで参加している。

Hさん（妻）：今回、松本で開催だったので行こうと思ったが本人が不安だということでオンラインで参加している。発症から4年、相澤病院でお世話になっている。今、思い出すと近藤先生に自分の声を登録しておくと言われた。まさかと思っていたが、東京の病院で『コエステーション』をやってもらった。現在は胃ろう造設をしたが人工呼吸器は付けてい

ない、痰の吸引もしていない。ワンキーマウスを使って足で文章を書くことができる。今日の講演で呼吸器について教えてもらってよかった。

司会：ワンキーマウスとはどんなものか三才山リハビリテーション病院の中川さん補足してください。

中川氏：三才山リハビリテーション病院で作業療法士をしている。
ワンキーマウスとはどこかスイッチを一つ押すことができればパソコンのマウスの操作ができるもので値段は安い。障害の日常生活用具給付の対象になっている。

司会：声の登録をしていると H さんが言われたが、これについてはどうか

中川氏：都立神経病院でやってもらったと思うがマイボイスと言うソフトを使って自分の声を再生することができる。先日、NHK で都立神経病院に「病院ラジオ」という番組の中でマリンバの演奏者が自分の演奏した音を使って現在も演奏している様子が放映されたが、自分の声を残す、それを使って自分の声を作ることができる、自分の声に近い人工的自声を作ることができるようになった。

司会：M 氏が「コエステーション」を使っている。

M 氏（妻）：「オリヒメ」という意思伝達装置を使っていて、コエステーションで録音した自分の声を使っている。
やってみると例文がおもしろい。



司会：自分でやるのが難しい方は担当の作業療法士さんに相談してみてください。

塚田支部長：オンラインで参加しています。今日はディサービスを利用して近藤先生の講演は移動の車の中で聞きました。今年 3 月で丸 11 年になった。

カフアシストは頑張って毎日やっている。呼吸の練習はリハビリの人にやってもらっている。そのほかは重度訪問介護のヘルパーさんがマッサージをしてくれる。マイボイスを吹き込んでいる。結構やることがあるので毎日忙しい。今困っていることはない。「ゼウス」（車椅子）は乗り心地がいい。ちょっとゆったりしているのでとても乗り心地がいい。

司会：「ゼウス」はどの位使っていますか。

↓市民タイムズに掲載されました

塚田支部長：使い始めて1ヶ月くらい。

司会：今は介護保険を使ってレンタルされていますが、ゆくゆくは購入の予定ですか。

塚田支部長：私はもう歳だから介護保険のレンタルでいいと思っている。

司会：オンライン参加のHさんから質問が来ている。

Hさん(妻)：5月中旬マスコミでネコバラミン製剤について報道されていたが、近いうちに使えるようになるのか教えてほしい。



近藤医師：新薬は今すぐに使えるものはない。ラジカット、リルテックを現在使っているアメリカでラジカットの飲み薬が承認されたと聞いている。日本でも使えるようになるのではないかと。現在、いくつかの研究所や大学で治験が行われている。まだ実用には時間がかかる。

Hさん(妻) 早く使える薬が出てほしいと思っている。

司会：おしゃべり広場を隔月で行っている。たわいもない話をしているが、その中で必要な情報をキャッチしてほしい。本日オンラインでご参加頂いている信大の日根野先生一言お願いします。

信州大学医学部附属病院 信州診療連携センター日根野医師(オンライン参加)：ALSの患者を何人か診ている。新しい薬は出てきているが、治るところまでいっていない。しかしコミュニケーション機器も色々出ている。患者さんから相談を受けることで勉強になっている。これからも相談があれば一緒に考えていきたい。

司会：信州大学看護学科の高橋先生一言お願いします。

信州大学看護学科 高橋氏(オンライン参加)：大勢の方が参加されていて関心の高さが感じられた。今できることにチャレンジしていること、頑張っている姿を見させていただき感謝している。何か力になれることを追求していきたい。

司会：難病相談支援センターの両角さん一言お願いします。

難病相談支援センター両角氏：情報を求められることもあるが、自分たちも教えてもらうことのほうが多い。アクアホーム里山辺さんのように在宅をしたいができない人に対応してくれる施設は貴重でありがたい。情報をキャッチしながら提供していきたい。

司会：機器の開発も進んでいるが患者同士の交流も必要。定期的に交流会は行っていきたい。おしゃべり広場も2か月に1回行っているので参加してほしい。次回は7月9日（土）に行う予定です。秋の交流会は清泉女学院大学とコラボして行う予定。最後に近藤先生から一言お願いします。

近藤医師：長時間にわたりお疲れ様でした。

3回くらい参加させてもらっているが、皆さんが本当に熱心で頑張っている姿を拝見できる。人が生きていくうえで大事なことは体が動ける、経済的なこと、生きていてよかったと思えることが一番大事なことだ。生きている意味が感じられる。人にとって大事なことは何か、教わることが多い。ALSになっても不幸ではない、不便であってもそれが不幸ではない。長野県でも重度訪問介護が利用できるようになってきた。喜ばしいことと思う。ALSに負けないで良かったと言える暮らしができるようにと願っている。



「呼吸リハビリとカフアシスト」

社会医療法人財団慈泉会 相澤病院
脳卒中脳神経リハ科 理学療法士 鵜飼正二／鹿川彰文

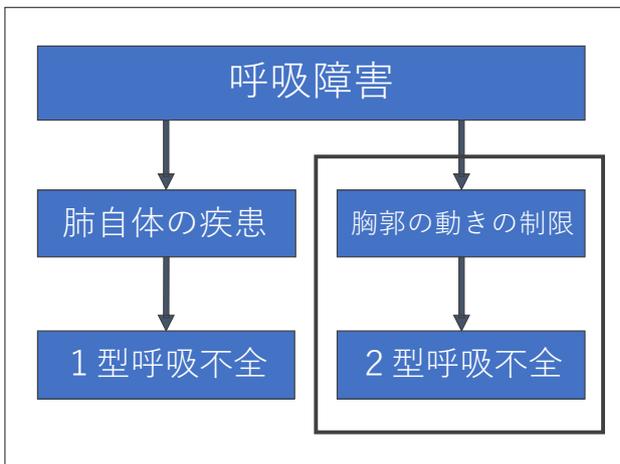
ALS の症状に対するリハビリは、関節可動域の維持や疼痛管理のためのストレッチやジョギング指導、筋力低下に対する運動療法・動作指導などが一般的に行われています。また近年ではこれらに加えて呼吸障害に対する呼吸リハビリの重要性も注目されています。今回の講演では ALS の呼吸障害に対する呼吸リハビリとカフアシストについてお話をさせていただきます。要旨を下記へ掲載いたしますので、皆様の参考になれば幸いです。

1. ALS に対する呼吸リハビリ

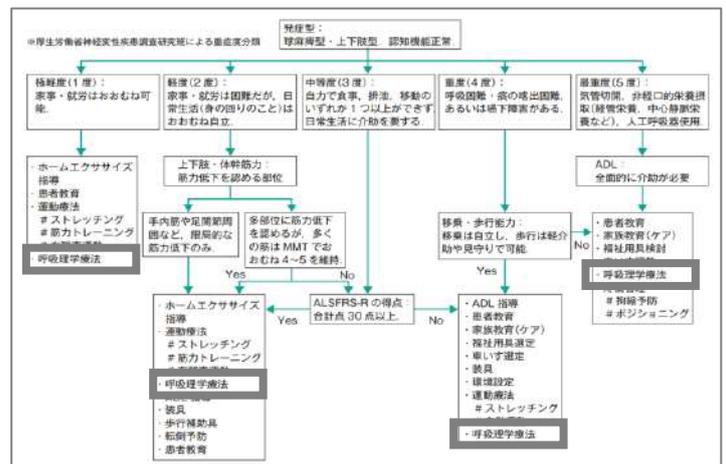
呼吸障害は、図 1 のように 1 型呼吸不全と 2 型呼吸不全に分けられます。肺炎など肺自体の疾患により酸素を取り込むことが難しくなる状態を 1 型呼吸不全、何らかの原因で二酸化炭素が吐き出せず体内に溜まってしまう状態を 2 型呼吸不全といいます。また、ALS の呼吸障害は呼吸筋の筋力低下により胸郭の運動が減少して肺活量が低下してしまう「拘束性換気障害」が主体となります。この症状が進むと呼吸が浅くなり 2 型呼吸不全を引き起こす原因となるため、ALS の呼吸障害に対するリハビリでは胸郭や肺自体の柔軟性の維持、もしくは機材を使用して呼吸を補助することが重要になります。

2. 呼吸リハビリの実際

ALS の方へのリハビリは症状の進行状況に合わせたプログラムを行うことが大切です。2021 年に改訂された理学療法ガイドライン第 2 版には ALS の重症度分類ごとの理学療法アルゴリズムが作成されておりリハビリを行う際の参考になります (図 2)。このアルゴリズムの中には、軽症から重症までどの段階においても呼吸理学療法が記載されており、できるだけ早期から呼吸リハビリは開始した方が良いことが分かります。胸郭の柔軟性を保つための柔軟体操を図 3 に掲載しましたので参考にしてみてください。



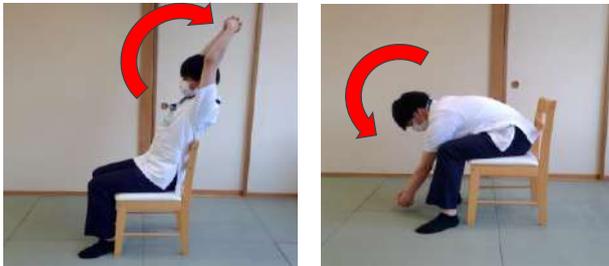
< 図 1 : 呼吸障害の種類 >



< 図 2 : 理学療法アルゴリズム >

胸郭周囲のストレッチ

- 体幹前後傾（ゆっくり5往復）



胸郭周囲のストレッチ

- 体幹側屈（ゆっくり5往復）



胸郭周囲のストレッチ

- 体幹回旋（ゆっくり5往復）



自分で動くことが難しい場合

- 上肢のストレッチ



自分で動くことが難しい場合

- 臥位での体幹回旋



自分で動くことが難しい場合

- ポストリフト



<図3：胸郭柔軟性を保つためのストレッチ>

3. 機器を用いた呼吸リハビリ

呼吸筋の筋力低下が進行すると深呼吸が行いにくくなり胸郭や肺自体が硬くなります。胸郭や肺が硬くなることで肺炎や無気肺といった合併症を起こす可能性が高くなるため、早期から柔軟性を維持するためのリハビリが必要といわれています。その方法として、胸郭はストレッチにより伸張することは可能ですが、肺を膨らませるためには LIC トレーナー

やカフアシストのような機器が必要になります。これらの機器を使ったリハビリの開始時期は、肺活量や咳の強さ（Cough Peak Flow）を目安にしているため病院等での定期的な計測が推奨されます。

① LIC トレーニング（図4）

呼吸筋の筋力低下により深呼吸が難しい方に対しては、バックバルブマスクを用いて強制的に空気を肺に送り膨らませる LIC トレーニングが有効といわれています。ALS の症状により息止めが難しい方や気管切開を行った後でも LIC トレーナーを用いることでこの練習を行うことが可能です。しかし強制的に肺へ送気するため圧がかかり過ぎた場合に気胸などのリスクがあり、医師の指示の下、最初は理学療法士とともに実施することが望ましいと思われま

- LIC：Lung Insufflation Capacity（肺の強制吸気量）
- 肺（胸郭）の柔軟性を保つための神経・筋疾患に特化した呼吸練習
- 開始の目安：
 - 深呼吸ができないと感じたとき
 - 肺活量が2000ml以下
標準肺活量（%VC）が80%以下
- 相対的禁忌（副作用）：
 - 肺実質に問題がある場合
（肺気腫、気胸の既往など）
 - 心疾患や自律神経障害



<図4：LIC トレーナーの説明と使用場面>

② カフアシスト（図5）

ALS による筋力低下が進行すると咳を十分に行うことができず窒息や誤嚥性肺炎のリスクが高くなります。カフアシストは咳を介助するための機器で、痰などの気道内分泌物を除去する効果があります。またこれにより吸引の回数を減らす効果や、胸郭・肺の柔軟性維持の効果が期待できます。使用するためには医師の指示の下、看護師や理学療法士による指導が必要になりますが、在宅で人工呼吸器を使用している方以外は保険適応外となるため早期から使用することが難しい現状にあります。

- 機械による咳介助
（MI-E：Mechanical Insufflation-Exsufflation）
- 気道内分泌物の除去による誤嚥性肺炎予防、吸引回数の減少、気管切開への移行を遅らせる。
- 胸郭柔軟性維持にも効果がある。
- 相対的禁忌（副作用）：
 - 肺実質に問題がある場合
（肺気腫、気胸の既往など）
 - 心疾患や自律神経障害



<図5：カフアシスト>

4. 今後の課題

LIC トレーナーやカフアシストなどの機器は上記で述べたような効果があるものの、認知度が低く使用できない医療従事者も多いためなかなか普及しないという課題があります。現在、長野県支部では機器使用のための公費支給や、使用できる医療従事者の育成について県へ要望を出しておりますが、こういった呼吸リハビリが 1 日でも早く普及することが望まれます。

2. 夢の信州ダービー車いすツアーについて

「共生社会の実現に向けて」

～夢の信州ダービー車椅子バスツアー～ 運営委員 中嶋岳大

車椅子で生活するALS患者や重度身体障がい者の4家族や介助者、支援者など総勢28人が参加して、5月15日（日）に、松本からリフト付きバスを利用して長野Uスタジアムで行われたサッカーJ3信州ダービーの観戦ツアーを行いました。実現困難と思われた夢の企画が、たくさんの皆さんからの温かいご支援・ご協力により、実現することができました。紙面をお借りして、企画に至った経緯や趣旨、参加者の様子や成果など綴ります。



〔企画に至った背景・経緯〕

1 発起人 横山浩一氏の社会活動

横山氏は、32年前、工作中的の不慮の事故で首の骨を折り、頸椎損傷により首から下が麻痺、ご自宅でご家族とともに介助を受けながら、松本市内で生活しています。重度身体障がい者でありながら、電動車椅子を操り、積極的に社会参加され、「ボランティア団体ひまわり号松本実行委員会」事務局長や「まつもとユニバーサルデザイン研究会」会員として、車椅子の方が旅をしたり、快適に暮らせる街づくりのための活動に取り組んでいます。

また、2015年にアルウィンで松本山雅FCのゲームを観戦して以来、その魅力の虜となり、今では熱狂的な山雅サポーターとして、ほぼ毎試合観戦しています。

日本テレビ「24時間テレビ愛は地球を救う」では、信州版募金箱のデザイン制作に携わるなど、デザイナーとしての能力を発揮しています。

2 バスツアー企画の発案の経緯

こうした横山氏の社会活動の中で、11年ぶりとなるサッカーJ3を舞台としたAC長野パルセイロとの因縁の対決「信州ダービー」観戦への思いが高まり、車椅子生活者には相当ハードルが高いアウェイ長野Uスタジアムへのリフト付きバスによる観戦ツアー企画を発案しました。

くしくも、同じく山雅サポーターであり、またALS患者を支援し、患者さんご家族と

2 観戦チケットの確保

車椅子と介助者の4セット8名分のチケットは、通常の先行販売で確保できましたが、その他の家族、介助者・支援者20名分については、プレミアムチケットになることは必然で競争率が激しい一般前売に頼るほかなく、神頼み状態でした。

そこで「当たって砕けろ。」の精神で、チケット販売担当の信濃毎日新聞社地域スポーツ推進部の方にツアーの趣旨を説明したところ、パルセイロさんのご理解もあり、特別に先行販売の了承を取り付けることができたため、ツアー企画が一気に現実味を帯びてきました。



3 参加費の設定

バス代やチケット代等で約

20万円の予算規模となりましたが、横山氏の奔走により、協賛事業所7社からたくさんの協賛金をいただくことができました。これにより4割近い財源確保ができたため、参加者負担も低く抑えることができ、一人当たり平均5千円を切る低料金を設定することができました。

例えば、お子さん3人と介助者数名を含む7人で参加された患者さんグループは、3万円を切る金額で参加いただくことができました。

4 参加者の車やバス駐車場の確保

出発地の松本市総合社会福祉センターには事前依頼をすることで、参加者の駐車場の確保ができ、バスの乗降も安全に行うことができました。

長野Uスタジアムでは、信毎やパルセイロさんの格別なご厚意により、スタジアム入場スロープに近接する乗降スペースを確保していただき、現地でも安全に乗降することができました。さらに、ゲームが終わるまで駐車させていただいたので、ゲームが始まるまでの休憩所や万一の時の避難場所としてバスを利用することができました。(長時間にわたるバス旅行でしたので、患者さんの体調管理が一番心配でした。)

5 スタジアム入場の際して

本来は、長く伸びた入場待機列に並び、さらに階段を上って入場することになるのですが、会場ボランティアさんのご配慮により、スロープから直接入場ゲートに入れていただいたことも大変助かりました。



〔参加者の様子〕

1 参加募集において

今回参加されたALS患者さん2グループは子育て世代のファミリーで普段から互いに家族ぐるみで仲良くされています。もちろん山雅ファンで、外出に対しても積極的な家族、この企画を提案したときはもろ手を挙げて参加を希望されました。

大切なことは、患者本人だけの楽しみにとどまらず、その家族は当然のこと、そして家族同然であるヘルパーさんたちと一緒に楽しむことに大きな意義を持つツアーでした。

一方で、気管切開をされて間もない患者さん本人は、参加したい気持ちはあるものの、体力面で不安があったようで逡巡されていましたが、奥さまから「そんなことではどこにも外出できないよ。」という叱咤激励により即参加が決まったようです(笑)。いずれにしろ、この企画は患者さんやそのご家族にとっても大きなチャレンジでもありました。

2 ツアーの様子

バス乗降時では、リフト付きとはいえ当然時間を要します。また、車内での自己紹介等でも文字盤などを使ったコミュニケーションや介助支援の様子を他の障がい者や支援者にも見ていただく機会となりました。参加者間で感情共有ができ、相互理解も深まって、難病患者関係者以外の方からは、参加してよかったという声を多数いただきました。

また、難病患者側も、他の障がい者の方と触れ合えたことが絆となり、ツアーが終わった今でもSNSなどを通じて交流が深まっています。

Uスタジアムでは春の夜の観戦となりましたが、屋根があるため冷たい風が吹き抜けることなく、快適に観戦することができました。ゴール裏の車椅子席は、多目的トイレに近接し、また通路も広く、車椅子にも優しい造りとなっていました。

試合結果は、0—0のスコアレスドローでしたが、一万三千人を超える観客の中でゲームの臨場感を存分に味わい、一体感のある応援では熱い山雅サポーターの一員であることを実感することができました。そして何よりも、子どもたちやヘルパーさんと共に過ごした時間は日常では得られないかけがえない思い出となりました。

一方では長距離移動に際し、患者の体調管理や使用する機材等に関して様々な教訓を得ることができました。

。



【おわりに】

今回のバスツアー実現に当たっては多くの困難がありましたが、横山氏の強い熱意と行動により、結果として成功裏に終えることができ、大きな達成感を残しました。また、マスコミやSNSでも取り上げていただき、大きな反響をいただいています。

私たちは、社会的弱者と言われる立場であっても、強いハートとチャレンジ精神があれば、硬い殻も破ることができるということを学びました。

車椅子生活者は、家族や介助者と共に外出するのが夢。社会から孤立しがちな身体の不自由な人たちも、みんなの理解と協力があれば、社会参加ができることを実感し、互いに尊重し認め合える共生社会も夢ではないことを確信しました。

そして、永遠のライバルの松本と長野、互いにリスペクトをもって共生していくことを願ってやみません。

ツアー実現のため協力いただきました関係の皆さんに感謝し、そして参加者からいただいた勇気と感動に対し、ありがとう。また、行きましょう！

3. おしゃべり広場の予定

R4年度 難病患者さんの「おしゃべり広場」

オンライン開催 〔毎回大盛況です！！〕



おしゃべり広場を始めるきっかけは、ある若い難病患者さんが「同じ病気の人と話がしたい・・・」と言った言葉からでした。しかし、交流会はコロナで開催が難しくなっていま

す。同じ難病という悩みを持つ人々がオンラインで気楽におしゃべりできたらいいなと思います。

開催日時 3回目 9月10日(土)
4回目 11月12日(土)
5回目 令和5年 2月11日(土)

時間はいずれも
14:00～
(2時間程度)

対象者 長野県内の難病患者さん・ご家族 (会員・非会員・疾患名は問いません)

* zoom に接続するための機器、インターネット環境等は各自ご準備ください。

* 事前に申し込みされた方のみ参加可能です。(zoom 招待します)

* 当日の zoom 招待は 14時 (5分前から) となります。

参加費 無料

申込締め切り 各開催日の前日

●各回の zoom の URL 等は申し込みされた方に連絡いたします。

お問い合わせ

事務局： 日本 ALS 協会長野県支部

T E L 0 2 6 - 2 6 3 - 6 3 3 5

F A X 0 2 6 - 2 4 3 - 8 8 2 0

E-Mail:

akane_harayama@tetote7107.org

4. 令和4年度 第1回 喀痰吸引等研修事業（3号研修）実施報告

<基本研修>

- 1日目 7月23日(土)
Zoom 講義
- 2日目 7月30日(土)
講義・演習・修了テスト



2日間(半日ずつ)の日程で、はじめての喀痰吸引等研修(3号研修)を無事行うことができました。受講生 5名全員、しっかりと講義、演習、テストを受け、テストに合格することができました。基本研修を修了したことになりますので、今後は各患者さんの所で実地研修していただくことになります。

支部として初めての事業で不手際や不安もありましたが、講師の先生方、受講生の皆様のご協力のおかげで第1回の研修を終えることができ、本当にありがとうございました。



この研修は、ヘルパーさんによる痰の吸引や胃ろうからの注入といった医療行為を認めて頂くための研修です。常時付き添ってケアしていただくヘルパーさん(重度訪問介護のヘルパーさん)に自分のための医療的ケアを行っていただく研修が 3号研修となります。不特定の方を対象とした1・2号研修とは違い、その方専属の特定の者による医療行為の研修となります。

次回、第2回研修は11月です。

次にお知らせを掲載します。

詳細は支部ホームページでご確認、または事務局へお問い合わせください。

第2回 喀痰吸引等研修事業（3号研修）案内

募集期間 R4年9/5～11/5 定員 5名 *受講の可否は後日連絡いたします。

基本研修 開催のお知らせ（第2回）

◆2012（平成24）年4月から『社会福祉士及び介護福祉士法』（1987年法律第30号）の一部改正により、介護福祉士及び一定の研修を受けた介護職員等は、医師や看護との連携による安全確保が図られていること等、一定の条件のもとで「たんの吸引等」の行為を実施できることになりました。

◆日本ALS協会長野県支部は、長野県の患者団体として初めて登録研修機関の認可を受けました。

◆当支部主催の本研修会は、主に難病患者や重度障碍児等に対して、安全かつ適切に喀痰吸引等実施できる介護職員等を養成することを目的として、研修会を実施いたします。

【研修日】(A) <講義> 2022年11月19日（土）13:00～16:40（zoom配信）

(B) <演習・講義・試験> 2022年11月26日（土）13:00～17:00

【会場】（研修B日程のみ）北部スポーツ・レクリエーションパーク（長野市三才1981-1）

【受講料】20,000円（保険料込み）

※別途教材費2,000円（送料込み）（「喀痰吸引等研修テキスト」厚生労働省版）

【カリキュラム】別紙1（ホームページ）参照

申し込み方法：FAXまたはEメール（ファイル添付）のいずれかの方法で受講申込書（様式1）をお送りください。「日本ALS協会長野県支部 研修担当」宛

<FAX：026-243-8820><E-mail：als.naganoken@gmail.com>

☆「受講申込書」はメールにてご請求ください。（長野県支部ホームページよりダウンロードも可）

☆「実地研修」は、基本研修終了後に対象利用者宅にて指導者（指導看護師等）のもと実施

別紙2（ホームページ）参照 ※別途実地研修費 3,000円

☆ 新型コロナ感染予防策を講じて研修会を行います。参加者はマスク着用必須となります。

☆ 感染状況の拡大等、研修会開催が困難と判断した際は、中止または延期の場合もありますのでご了承の上お申し込みください。

<お問い合わせ>

日本ALS協会長野県支部（原山）

TEL：026-263-6335 FAX：026-243-8820

E-mail：als.naganoken@gmail.com

5. 秋の交流会のご案内 (清泉女学院大学とのコラボ企画です)

清泉女学院大学地域連携プロジェクト

障がい者の世界に
触れてみませんか？

ソーシャル・インクルージョン in 清泉

第1部 講演会 ～ALS 当事者と支援者の思い～

NPO法人 境を越えて 理事長 岡部 宏生 氏
コロリエALS (ヘルパーステーションあがた) 赤沼 さち子 氏
NPO法人 広域協会 支援コーディネーター 吉村 まき 氏



第2部 交流会

清泉キャンパスと各地をオンラインで繋いで語り合い

日時：2022年10月29日 (土) 13:00～16:00

場所：清泉女学院大学東口キャンパス

定員：来場 50名、オンライン (ZOOM) 200名

参加費：無料

*申し込み締め切り：10月24日 (月)

*ZOOMのパスワードなどは、2日前までにメールにお送り致します。

*新型コロナウイルス感染状況によって、全面的にオンラインでの開催に変更する場合がございます。

*駐車場はございません。お車の方は近隣の駐車場をご利用ください。



申し込みはこちらのQRコードから
アクセスしていただくか、裏面の
FAX申し込み用紙をご使用になっ
てください。

主催：清泉女学院大学

担当者：看護学部看護学科 助教 大関春美

oozeki@seisen-jc.ac.jp

協力：日本ALS協会長野県支部

ソーシャル・インクルージョン in 清泉

FAX申し込み用紙

FAX番号：026-223-3011

清泉女学院大学東口キャンパス事務局

氏名	
ご所属	患者・家族・一般 専門職 ()
	所属機関 ()
参加方法	来場 ・ オンライン どちらかに○を付けてください。
電話番号	
FAX番号	
メールアドレス	
同伴者 (氏名)	

*ご記入いただきました個人情報は今回のイベント以外に使用することはありません。

担当者：看護学部看護学科 助教 大関春美
問い合わせ：oozeki@seisen-jc.ac.jp

受付番号：

6. ご寄付をいただいた方 相澤病院診療部長 近藤清彦様

企業広告 岡谷酸素様 麻屋家具製作所様

7. 支部の動き

- 令和4年4月15日(金) 喀痰吸引等研修委員会①
5月11日(水) Tさん宅訪問 (原山)
5月14日(土) 第2回 役員会 (オンラインにて開催)
① おしゃべり広場
6月11日(土) 令和4年度 総会&講演会・交流会 (松本なんなん広場)
6月25日(土) Uさん宅訪問 (中野・原山)
7月7日(木) 清泉女学院大学地域連携プロジェクト打ち合わせ
(オンライン開催)
7月9日(土) 第3回 役員会 (オンラインにて開催)
② おしゃべり広場
Nさん(北信総合病院)訪問 (原山)
7月18日(祝) Hさん(I施設)訪問 (原山)
7月23日(土) 第1回 喀痰吸引等研修(基本研修A) オンラインにて開催
7月30日(土) 同上 (基本研修B)
長野市北部スポーツ・レクリエーションパークにて開催
8月3日(水) 清泉女学院大学地域連携プロジェクト打ち合わせ
(金子・原山)
8月5日(金) Kさん宅訪問 (原山)
8月17日(水) 清泉女学院大学東口キャンパス 会場下見・リハーサル準備
(金子・原山)

長野県支部ホームページ公開中！！

是非ご覧ください



長野県支部連絡先

※ALSに関する相談や心配事などありましたらお近くの運営委員にご連絡ください。

事務局 原山方 TEL 026-263-6335 (居宅介護支援事業所 手と手)
FAX 026-243-8820

長野県支部 E-mail: als.naganoken@gmail.com

事務局直通 E-mail: akane_harayama@tetote7107.org

※長野県難病相談支援センター 難病相談支援員 両角由里氏

松本市旭 2-11-30 TEL 0263-34-6587 Fax 0263-34-6589

(両角由里氏には顧問をお願いしております。お困りごとやご相談などありましたら、ご連絡ください。)

すべては、安全・安心の医療のために・・・

- 医療関連機器・喀痰吸引器機等の販売・メンテナンス
 - 住環境、事務所環境（冷暖房設備）及び防災対策（BCP）商材販売
 - 各種ガス供給（産業、LPG、医療用）
 - 各種ガス設備工事 設計・施工
 - 各種ガスの保安活動
- ※高度管理医療機器等販売・貸与業／医療機器修理業許可取得業者

岡谷酸素株式会社 <http://www.okayasanso.co.jp>

本社/〒394-8585 長野県岡谷市幸町6-6 TEL: 0266-22-5531
 松本/〒399-0004 長野県松本市市場6-20 TEL: 0263-27-3091
 長野/〒381-8560 長野県長野市中越1-1-1 TEL: 026-251-0305
 新潟/〒950-2033 新潟県新潟市西区亀貝3382 TEL: 025-260-2898



麻屋の介護保険サービス

1. 福祉用具のレンタル
(ベッド・車イスなど13種目)
2. 福祉用具の販売
(ポータブルトイレ・シャワー椅子など5種目)
3. 住宅改修
(手すり)の取付・床材の変更・洋式便器への取替など)

当社サービス実施区域

長野市・千曲市・須坂市・小布施町・小川村・
 大町市・小谷村・白馬村・生坂村・安曇野市・
 池田町・松川村・松本市 その他

介護保険 福祉用具レンタル指定事業所
 事業所番号 2073400174
 事業所名 (株)麻屋家具製作所
 〒381-2405 長野市信州新町 新町698
 TEL 026-262-2073 FAX 026-262-4894
 026-262-2073
 長野事務所 長野市稲里町中央

大北営業所
 〒399-8501
 北安曇郡松川村7027
 TEL 0261-62-4321
 FAX 0261-62-0871
 0261-62-4321